



## 「わかる」「できる」「楽しい」授業をめざして

12月号・1月号のすたなびは、『「わかる」「できる」「楽しい」授業をめざして』と題して、2回に渡って、どのように授業の工夫をしているのかを紹介しています。12月号では高学年・専科・新学習システム、1月号では低学年・特別支援学級での授業の工夫を紹介しています。

※お詫び：前号（11.27発行分）は、No.31でした。訂正をお願いします。

辰美小学校では、教室にノートパソコン・実物投影機、プロジェクターなどの機器が整備されています。そこで、これらの機器を積極的に授業に取り入れています。

例えば、社会では、写真やグラフを拡大して見せたりしました。これによって、学習する内容に興味を持ち、課題を明確につかんでほしいと考えました。

また、算数では、黒板や言葉だけの説明では教えにくいものを、発表ソフトのアニメーションをつけることによって「視覚に訴える」ということを意識しました。動きがあることで、少しでも理解を助けたり深めたりすることができればと思っています。

さらに、発表ソフトで繰り返し見せるカードを作り、慣用句などは何度も暗唱して知識の定着を図りました。

その他、自分の考えを少しでも伝えることを目指して、隣同士で問題の説明をしあったり、考えを言い合ったりしました。何度もやっている、大勢の前ではなかなか言えないことでも、一対一なら、友だちの意見も参考にしながらなんとか言ってみようとする子が増えてきました。

4年 近藤 友二

黒田 「算数（数学）のセンスがある子は、どんな子だと思う？」

子ども 「頭のいい子」「計算の速い子」

黒田 「正解は、めんどくさがりの子です。しかも、とびっきりの。」

子ども 「えー！うそやー。」

黒田 「めんどくさがりの子は、少しでも楽をしようと頭を働かせます。そうすると、まじめな子では思いつかないような近道を発見します。こうして算数（数学）は進歩してきたんだよ。」

このように、子ども達の勉強や色々な物事に対する思い込みを覆すことから始めています。上の例はかなり強引ですが、これで苦手意識を持っている子にも少し希望の光が射します。学校の勉強が嫌いな子どもの多くは、自分の生活と勉強のつながりが見えていません。自分の得意なことや興味のあることが、実は学校の勉強と関係があること、逆に学校の勉強が自分の生活に活かすことができることに気付かせることが長い目で見ると重要だと思います。

そういったことを意識して、日々の授業を組み立てています。

5年 黒田 昌克

### 「わかるから楽しい」 見通しを立てやすくする

この時間に学習するめあてをはっきりさせてから、授業に取り組むようにしています。その時間のゴールが見えることによって、学習に取り組みやすくなるとともに、考えやすくなると考えています。

### 話し合い活動の充実

朝の会でスピーチ活動に取り組んでいます。2週間に1度のペースで新聞記事からスピーチの内容を見つけ、原稿まで準備します。その際、要約をしたり聞き手にわかりやすくする工夫を考えたりします。そのことにより、まとめる力伝える力を鍛え、そこで培った力を教科学習の中で活用させることができます。

お互いの考えを交流する機会が増えることによって、自分の考えを出しやすい環境にすることができます。そんな中でこそ、お互い「できた、わかった、楽しい」と思える学習が生まれると考えています。

### 子どもたちの作ったゲームで学習スタート

歴史上の主要な人物やことわざ、四字熟語についてのクイズを子どもたち自ら作ってくれました。国語と社会の時間はこれらのクイズで幕開けします。自主的に改良もくわえられ、クイズを解く方も作る方も楽しく全員で参加しながら学習しています。

6年 岡本 典子

どの教科も、児童にとって身近なもの、親しみを持てるものを取り上げ、意欲的に学べるようにしています。

☆**図工**では、季節を考えた作品を作ります。12月はクリスマスやお正月にぴったりの作品を作り、どの子も意欲的に楽しく制作しました。また、工作の時は実物投影機を使い、視覚を通して理解しやすく配慮しています。

☆**家庭科**では、単元で大きな目標（ナップザック作りや、食事作りなど）を立て、児童が主体的に取り組めるようにしています。

☆**音楽**では、班ごとに演奏発表をする等、活躍する場を作り、お互いに認め合うことで意欲を高めています。

☆**理科**では、「課題→予想→実験・観察→結果→考察」の流れを基に児童の探究心を大切にしながら学習を進めています。一人一人が必ず1回は実験操作をできるようにし、理解を深めています。

専科 山本 愛実

私は、4年生の理科、5・6年生で算数と理科を教えています。ふだんの授業では、子ども達の立場に立って全員が学習の内容を理解できるように心がけて準備し実践しています。学習内容によってグラフ、図などの掲示物を用意し、資料のプリントや練習問題のプリントなども使いながら学習を進めています。

理科では、実験・観察時にできるだけ一人一人が取り組めるように準備をしています。そして、実際の事物を提示したり、また実体験ができにくい教材でも少しでも類似した経験ができる工夫もしたりしています。たとえば、6年生の理科の「大地のつくりと変化」では、地元の阿那賀の海岸の堆積岩や八木の山の岩石のサンプルを授業で使ったり、紙粘土を使って地層をつくりストローを使って地層のポーリング体験を類似体験させたりしました。子どもたちも楽しく意欲的に取り組めていました。

新学習システム 正木 隆博